

## 特集：GIGA スクール構想と学校図書館

# 香りと共に歩む GIGA スクール構想

— 兵庫県姫路市立豊富小中学校 —

井上 佳尚

扉を開けると、ふわっと香る紙の匂い、学生生活の記憶に図書館の香りを思い出す諸氏も多いのではないだろうか?今回、「GIGAスクール構想における学校図書館」というお題をいただき、ふと自分自身がネット社会になったとしても一番大事にしなければならないものは何だろうかと考えたとき、あの図書館独特の香りを残していかなければならないのでは…と考えた次第である。

さて、私の勤務する姫路市立豊富小中学校は、2020年4月に既存の中学校と小学校が統合し、校舎一体型の義務教育学校としてスタートした。学校図書館は前期課程（小学校）と後期課程（中学校）のそれぞれにあり、初年度はそのどちらにも学校司書が配置されていた（現在は1名）。また、9年間を通じたカリキュラムの中のひとつに学校図書館とNIE（Newspaper In Education：教育に新聞を）を掲げ、図書館や新聞を活用することにより課題対応能力の向上を目指そうという目標のもと、日々の教育活動を行っている。

今回は、前期課程1年生から後期課程9年生までの開校から3年間の活動をもとに、GIGAスクール構想と学校図書館での授業や、学びの様子をお伝えできればと思う。

本校の図書館 プロフィール

兵庫県姫路市立豊富小中学校（公立）

所在地：〒679-2122

兵庫県姫路市豊富町御蔭925番地

<前期課程> <後期課程>

面積(座席数)：約112㎡(45席) 約125㎡(40席)

蔵書冊数：10,113冊 9,976冊(R3年度末)

担当者数：学校司書1名

学級数：16学級 10学級

## Chap.1\_読書センターとしてのあり方

学校図書館に第一に求められるものとはいったい何だろうか。おそらく、読書活動の推進と、児童生徒の読書習慣の定着であろう。それゆえに、蔵書の割合をチェックすると9類の割合がとて多く、文学的な読み物以外の蔵書も検討しなければ…と頭を抱える諸先生方も多いことだろう。かくいう私もこれまでの勤務校で頭を抱えた者の一人である。この章では読書センターとGIGAスクール構想という視点で語りたいと思う。

### case.1\_今日の一冊、なんだろう?

2019年の年度末から2020年の年度当初にかけ、未曾有の全国一斉臨時休業措置がとられ、児童生徒をはじめ、教職員や学校現場は「感染拡大防止」の名のもとに様々な行動が制限されることとなった。そんな中、本校の学校ホームページでは2020年4月21日に1日1冊ずつ学校司書や教員が「今日の一冊」を紹介するという企画が始まった。読書を通じて家庭や児童生徒、学校がつながろうという試みであったが、今思えばこれがGIGAスクールにおける本校の学校図書館としての取組みの第一歩だったかもしれない。いわゆる「おうち時間」を有意義に過ごしてもらおうということで、今読んでほしい本、これから読んでほしい本、保護者と一緒に共有してほしい本、SDGsに関する本など、多岐にわたって紹介した。これは、同時双方向というものではなかったが、インターネットを通じ、各家庭ひいては児童生徒一人一人につながっていきこうという試みの一端でもあった。最終的に2021年4月まで毎日続き、365回をもって終了と